

## 【芸術文化ホール】未来へつなごう！スマイルトーク

と き 令和8年2月5日（木）18時30分～

ところ 芸術文化ホール

出席者 125人

### Q1【議会戦略】

市民サービスの削減について議会がほとんど反対していると感じるが、議会戦略はあるのか。内容の理解はできるが、議会は通らないと思う。

A 市長

私の力不足で12月の議会では反対され、手数料条例の改正、図書館中部分館の廃止もできなかった。反省し、丁寧に説明し、市民の皆様、議員の皆様にご理解をいただきながら、前に進めていきたい。

### Q2—1【財政状況】

以前に財政非常事態宣言の話の後に「お金はあります」と言っていたが、その真意を教えて欲しい。

A 市長

碧南市の平均的な税収は180億円ある。不交付団体なのでお金はあるが、今までいただいた税金をお返ししようと運営してきた。やりすぎてたところが今の時代の中で出てきた。税収はあるが、歳入と歳出のバランス、物価高騰、人件費等、社会情勢の中で崩れてきた。

### Q2—2【財政状況】

税収はあるが出る方が多いということは、瞬間のお金はあるが貯金はないということか。

A 市長

令和7年度末で32億円の貯金という見込みだが今のサービスをすべて続けると、令和10年にはマイナス7億円になる試算をしている。

### Q3【財政状況】

今回の宣言は碧南市が赤字に転落するため、採算改善をどうするかという話だと思う。一般企業からすれば今すぐ改善計画を立案し、令和8年度から実行するのが会社経営だと思っている。2月議会が始まるが今の計画が実行できるのは今年の4月からではない。制度変更にも時間がかかり始められるのは令和8年度の下期。時期がずれることによって、今の目標の令和10年の財政調整基金（貯金）20億が本当に達成できるのか。20億の目標だが、60億あつ

たものの3分の1を目標とするのか。高い目標を掲げないのか。その中で、市民に負担をかけるという項目が多々出るが、企業の方にも改善を要求することはできないか。法人市民税の税率については交付団体ではないので8%にできないと思うが、収入を増やすことに対して、もう少し知恵を出せないのか。

A 総務部長

法律では超過税率として8.4%まで上げられるが、碧南市は不交付団体で近隣市も6%のため上げていない。近隣では知立市が駅の改修のため法人市民税の超過税率を一部採用し、企業から集めている。税率は企業が進出する目安にもなり、上げると市外に行ってしまうため標準税率としている。

A 副市長

財政調整基金の目標額について、10年度末に枯渇する恐れがあるため、目標額を20億円としている。7年、8年、9年の3年間の行財政対策として20億円を掲げている。達成後は50億以上の財政調整基金残高を目標にしている。

#### Q3-1 【財政状況】

碧南市が不交付団体から交付団体になり、国、県から補助金をもらうのはどうか。高齢化、人件費、物価高騰はどの市町村でもあり、碧南市だけが財政問題を取り上げているが他市では聞かない。交付団体はどのように市を運営しているのか。

A 副市長

職員としてはよく他市の話も聞く。「非常事態宣言をうちの市も」と考える自治体もあるかもしれない。碧南市としては公共施設、市民病院と抱える問題が多いため一番影響を受けていると認識している。

財政力指数が1を超えると不交付団体になる。交付団体になるには税収が30億から40億くらい落ちなければならぬ。よほどのことがなければ交付団体になることはない。だからこそ今やらなければいけないことを説明している。

#### Q4-1 【財政調整基金】

財政調整基金が令和5年6年は59億円あるが、7年で27億円減っている。その後15億円急に減る。前年は59億円あったのが急に27億円減った原因を説明してほしい。

A 副市長

令和7年度の当初予算で財政調整基金を約20億円取り崩した。加えて、市民病院に基準外で17億円、基準内で13億円と合わせて30億円の繰り出し

と報告した。積み重なり令和7年度末での財政調整基金は32億円を見込んでいる。

#### Q4-2【市民病院】

物価高は全体の問題だが、市民病院が主な原因であれば、まず徹底的に病院の改善を図るのが本質ではないか。

##### A 副市長

市民病院は24時間365日動いているため、急な変更はできない。1月27日に市議会協議会で市民病院の経営改善策を報告した。また、27日以降の取り組みは議会を通じて周知していく。市民病院は金額が大きいため取り組んでいるが、その他に公共施設の多さもある。並行して進めて持続可能な碧南市を作っていきたい。

##### A 企画財政部長

財政調整基金が枯渇するグラフについては市民病院への繰り出しが基準内のみの場合で示している。基準内の繰り出し金は約13億から15億円で、基準内の繰り出しでも貯金はなくなる。令和7年度は約17億円を基準外で繰り出した。貯金が減るのは公共施設が多いことによる維持管理費、人件費の増加、高齢化による扶助費の増加がある。市民病院だけではなく大きな問題、課題があるから宣言に至ったということをご理解いただきたい。

#### Q5【ごみ収集】

私は碧南市でゴミの回収をしている。昨年12月に碧南警察並びに愛知県警からゴミ収集車にぶら下がったの収集を正式に禁止され、収集車の後ろを走って回収している。現状、気温は寒いですが汗をかいており、夏を待たずに我々は倒れる。真夏では40度を超え、誰もやりたがらない。回収業者3社で環境課に、車に乗り降りしても回収できるような集積方法を要望したが、できないと回答をもらった。ステーションへのごみ出しにすれば、市民サービスは低下するが回収経費を削減できるため採用できないか。市長、副市長の考えを聞きたい。

##### A 副市長

ゴミ収集のステップ乗車の報告を受け、環境課で各業者と調整していると聞いている。高齢化が進む中でゴミを持っていけない世帯も増えていくためステーション方式の採用は難しい。気候の影響で回収が厳しいことは理解している。市が直営で回収するエリアを持つことやそれに伴う予算についても検討している。一つの取り組みだが、ある地区の公共施設に緑のコンポストを試験的に置き、収集のモデル地区のようなものを検討している。市全体で実施するのは難しいため、そういった地区を増やしていきたい。

#### Q6【財政状況】

令和6年、7年の財政の急激な悪化を新聞やメディアで初めて知った。市ではいつから把握していたのか。不確定要素と言っていたが企業なら絶対に許されない。市民としては突然言われても困る。将来、子どもたちが碧南市で生まれ育ってよかったと思えるようにしていただきたい。直近の話だけではなく、5年先、10年先の話をしてほしい。

#### A 市長

やるべきことは早急にやっていきたい。議会や市民の皆様と話し合い、街が動いていく。12月議会で否決になったのは、私の力不足で、本当に申し訳ないと思う。話の場はこれからも丁寧に作っていく。今日来れなかった方たち、全市民と話したい。子どもたちが碧南に住んで良かったと思える、誇れる大人でありたい。一緒に誇れる大人になれるように、力を貸していただきたい。

#### Q7【公共施設】

半田の病院がなくなり、命を救うところがなくなった。碧南もそうなるのは困る。行ったこともない美術館や無我苑はいらないため、不要な公共施設は少なくし、重要なものだけ残してほしい。

#### A 市長

公共施設の削減、統合、民間委託は検討しており、来年度の9月に計画を改定していく。

#### Q8【財政難】

いつから財政は厳しいのか。この資料だけでは分からない。私は無料入浴券で年間48回お風呂に行ってるが440円を払って入る気はない。ゴミ袋もクリーンセンターに直接持っていけば買う必要は無い。クリーンセンターは今以上に混雑する。収益を見込んで調査をして、確たる理由があって、市民負担を増やすのか聞きたい。

#### A 企画財政部長

一番多くて平成20年度には86億円余の貯金あった。リーマンショックの時に貯金を崩して市政運営をし20億円台まで減った。リーマンショックから回復して50億、60億の貯金があったが、ここ数年で減少した。法人市民税の税率の低下により、この5年間ぐらいは毎年10億円ぐら少ない税収だった。病院も国の方針で医療費が抑制され、診療報酬のマイナス改定が続いた。人件費は上がるが診療報酬は下がり、全国の公立病院の83%が赤字になっている。その影響を受け、ここ2、3年で急速に赤字が大きくなった。ゴミ袋や

風呂の担当部局からは利用者へのヒアリングを行ったと聞いている。

#### Q 9 【病院・資産運用】

市民病院は安城更生病院に劣っていると感じる。患者の減少や高齢化の話が出たが調査したのか。国が国民に勧めるように市は資産運用をしないのか。

##### A 病院長

病院としては丁寧な診療を行っており、安城と比べて劣るとは思わない。各病院には役割があり、高度な機器や人数が必要な処置はそこでしかできない。市民病院に行きたいと言われるよう努力していきたい。

通院、入院患者はコロナ禍以降全国的に減少している。早期退院が国の方針で、早期リハビリ、在宅医療の発達などの影響もある。実際に入院患者は10年前、20年前は50代だった中央値が80代になっている。

##### A 副市長

資産運用について、以前は大口定期の一番利率の高いところに預金を積んでいた。公金のため基本的に国債や有価証券、危険性やリスクの高いものは手を出してはいけないということでやっていなかった。2、3年前から国債も含め公共債の購入を進めてきた。最近は利率も良くなりやりたいが、貯金が枯渇する可能性もあり、現金を持っている必要があるため資金運用は滞っている。

##### A 市長

ファイナンシャルプランナーの立場で言うと、投資は余裕のあるお金でやるもの。余裕がない時に、生活資金を崩してやるものではない。

#### Q 10-1 【スマイルトーク】

今日の話は納得できるため、着々と粛々と進めていただきたい。緊縮体制、有料化、マイナスの話、他よりレベルを落とすわけではないのは理解できる。ただ、スマイルトークと言うならば若い人たちが夢を持てるような、笑顔が出るような夢のある話を盛り込んでいただきたい。高齢者や様々な団体、市役所、病院、関係者だけではなく、市民の方に問われたらどうか。

##### A 市長

これまで市のお金でやってきた部分について、これからは国や県の補助があれば使う。職員が補助をもらえるよう努力し改革を進めてきた。一年間で20億減らそう、削減しようとしてここまで来た。本当に努力しこの数ヶ月はやれないことができています。

#### Q 10-2

努力を否定してるわけじゃない。ありがたいこと、どんどんやっていただきたい。市民の中には初めて聞く人が、ここにも何人かいると思うが、ネガティ

ブに聞こえる部分がある。プラス思考の提案をしていただけると、夢とか笑顔を持って聞くことができると思う。

**A** 市長

私の話し方がまずかった。そこは謝らせていただきたい。無料だったサービスがなくなるのは辛いと思うが、私たちの生活が明日にでもできない状況になるわけではない。市民の皆様もこういう形に変えたらもっと良いのではという案があれば教えてほしい。私たちの町を作っていく、行政任せではなく、自分たちで何かに取り組み、みんな一緒になっていろんなことをやってきてるところを子どもたちに見せるということがとても大事なことだと思っている。あと2回開催するが、皆さんが「そうだよね」と「わかった」と「応援するよ」と言ってもらえるよう努力していく。決してマイナスに受け止めないでほしい。私たちだったらできると思う。ご協力をお願いしたい。

## 【文化会館】未来へつなごう！スマイルトーク

と き 令和8年2月8日（日） 10時～

ところ 文化会館

出席者 124人

### Q1-1 【法人市民税】

昨年の12月議会を傍聴し、市の財政の担当部長が国の法人市民税は10年前は12.3%、次に9.7%、今6%になった。国は6%で厳しい場合は8.4%までの超過課税を認めている。全国のほとんどの自治体が8.4%にしているが、なぜ碧南市はやらないのか。

#### A 総務部長

碧南市の法人市民税は標準税率の6%を採用している。特別な事由があれば超過税率の8.4%まで上げてよいと法律にある。全国的には8.4%を採用している自治体が多いのは事実だが、製造業が集結している西三河ではほとんどが6%を採用している。知立市では知立駅の改修で莫大な費用が必要なため一部の大企業に対し8.4%を採用している。企業が進出する際に税率も参考にするため、碧南市が税率を上げると、碧南市にある企業が法人市民税が安い近隣市へと出て行く可能性もある。碧南市は税収がある不交付団体であるため、標準税率の6%を採用している。

### Q1-2 【法人市民税】

税金を上げると企業が出ると言うが、企業はそこは考えていない。立地条件や仕事の効率が重視され、税金の重要度は高くない。

#### A 副市長

不交付団体で超過税率を採用している自治体はほとんどない。各種状況を踏まえながら検討していく。

### Q2 【政策】

ここ何年ではなく10、20年先を考えているのか。今、団塊の世代の上の方は80才になる。15年20年先に生きていない。全国的に産婦人科が減少する中、市民病院なくなると緊急の場合はどうするのか。市議会議員が言うから、利用者がいるからという理由ではなく、残すものは残す、削るものは一気に削る。健康ランドなどは1、2千円、銭湯では500円以上かかる。風呂は各家庭にある。行きたい人は有料で行けばよい。免許返納する方が増えるが、増加は一時的で10年後には減る。市民病院の駐車場はいつもいっぱい、赤字の理由がわからない。給食費や教育費を無償化しても出

生数は上がらない。昔は子どものため一生懸命働いて全てお金払ってきた。今の人たちは趣味にを使って我慢をしない。無料のサービスはないため、利用する限り金を支払わなければおかしい。

**A** 副市長

サービスについてはスピード感持って見直していきたい。今回の行財政対策は令和7年、8年、9年の3か年で対策を考え、財政調整基金の残高を令和10年度で20億円確保したい。急ピッチで目標に向け取り組んでいきたいが、急激な変化は市民の皆様も望んでいないため、バランスを見ながら対応していきたい。

**Q3** 【市民病院・公共施設】

削る話ばかりだったが、納得できたのは老朽化した施設は取りやめるという話。どう歳入につなげていくかを論じてほしい。市民病院の駐車場はいつもいっぱいだと市民は思っているが売り上げと合っていない。妻が救急にかかり、再診の予約をして受診したが4、5時間かかった。診察や治療の仕方の見直し、客単価、回転数を上げるよう考えてほしい。僕も子どもも救急で別の病院に運ばれた。患者がいて医者が余っていて受け入れないのはおかしい。診療体制を整えて、歳入を増やすための努力をしてほしい。公共施設でもイベントを削ろう、展示を削ろうではなく、個展をやりたい人を誘致するなど、歳入側を考えてほしい。今日の話は削る話ばかりだったという印象を持っている。

**A** 病院長

医師が多いというのは、診療科のバランスの問題で、小児科は常勤の医師が2人しかいない。小児科の入院の休止は定年退職で小児科の医師が一人になるため。小児科の医師は全国的に減少しており、国の方針で大学病院は拠点の病院に医師を配置させている。小さい病院には医師が集まらず、24時間365日対応するのは非常に難しい。産婦人科の分娩の廃止は出生数の減少と産後に小児科医が24時間対応できないため。救急、産科の当直、夜の救急の麻酔と非常勤の医師に頼っている部分が多く削減していかなければならない。高齢の方を中心に年間3,500台の救急車を受け入れている。その方々が安心して診療を受けられるように総合診療科を作る。現在の医療は一つの病院では完結しないとされており、国の方針でも医療圏で考えるよう言われている。碧南は西三河南部として刈谷、安城、西尾、高浜の医療圏で、各病院で役割を分担し、廃止する場合は受け入れの依頼をしている。診療が長くなったことについては申し訳ないが、医療体制については改善していきたい。

**A** 副市長

市長の話の最後に北部工業地域、港、発電所の話をし、様々な可能性がある

と伝えた。廃止の部分が耳に多く残っていると思うが、碧南市は歳入が多い自治体である。歳出も多かったため見合ったサービスに変えていく。今ある施設を取り壊す、使い切る、民間提案などを受け有効活用を考えていく。碧南市が持っている矢作川近くの土地に公共施設は建てられないが、発電施設を建設し公共施設に供給することなどを検討している。廃止、見直しだけではなく、有効活用も考えている。

#### Q 4 【情報発信】

今日の集まりがあるという広報に告知したのかと思い、遑ったが分からず市役所に電話した。20、30年前にゴミの分別を始めた時には、字でそれぞれ集まれと、出欠まで取っていた。今の情報発信の方法では多くの方が情報を逃すのではないかと。施策を実施してからトラブルが起きるのではないかと。情報発信を徹底していただき、みんなの意見を吸い上げていただきたい。

#### A 総務部長

今回、急遽開催を決定した。12月議会で市から提案をした中で、承認されない部分があった。市民への説明が足りないと意見があったため急な開催となった。市長からは全市民を集めて文化会館の大ホールでやりたいという話もあった。これまで各地区でスマイルトークをやったが、そこまで集まらなかった。2月号の広報の掲載、各地区への案内、LINEでの通知、各施設にポスターを掲示した。全ての方に情報を届けるのは難しい時代になってきているが、今後も、できるだけ多くの方に、届くような情報発信を続けていきたい。

#### Q 5 【市民病院】

新聞によると令和7年度の市民病院の赤字は補正予算を入れて合計30億。近隣で市民病院がある自治体は人口11万の半田、人口17万の西尾、人口38万の岡崎。半田では知多半島全体で総合的に診るとして市民病院がある。しかし、人口42万の豊田市にはない。市が補助し更生病院や更生連と協力している。人口72,000人の碧南で市民病院が要るのか。更生連や刈谷豊田総合病院を誘致するのはどうか。市民は市民病院に利益があると思っているが、財政規模に応じた病院を持たないと潰れる。高浜のように刈谷豊田病院の分院も一つの形だと思う。総合病院はある程度必要だと思う。碧南市には小林記念病院と新川中央病院があり、市民病院も総合病院として生き残れば良いと思う。

#### A 市民病院経営管理部長

令和6年度の決算で14億円の過去最大の赤字額を出した中で、市民病院をどう残していくのか、指定管理や民間へのお願い、極端な言い方では廃院も含

めて模索をしている。年3, 500台の救急車、救急外来では1万人を超える受け入れがある中で、体制を維持していかなければいけない。あらゆる可能性を排除せず、市民の皆様が一番影響のある救急外来の維持を最優先に検討を進めていく。

#### Q6 【公共施設】

芸術文化ホールでのスマイルトークで無我苑、美術館は不要との意見があった。使わない人はいらなと思う。令和10年に貯金を20億貯めるという中で廃止ではなく、2年間休館しその間に稼ぎ方を考える。東部プラザの風呂を休館し年間5,000万浮かせる。細かいところではなく大きく鉈を振り令和10年の時には20億貯める。受益者負担の考えで利用者に負担してもらう。風呂の無料券の廃止。市民病院、あおいパーク、臨海公園の駐車場の有料化。受益者からお金を集める考えがあってもいいと思う。令和10年に20億なかったら責任を取って辞めるのか。続けてもう一期やるのか聞きたい。

#### A 企画財政部長

別の方は、私はお風呂を使わないしバスも乗ったことがないと言われた。無我苑と美術館も例に挙げた。利用者にとっては必要だが、使わない人は不要だと言う。12月議会で中部分館の廃止の話をした。7万人の自治体で図書館を三つ持っている自治体は他に無い。図書館の機能を持つ施設が3つ必要か、公共施設の在り方を考えなければならない。施設を閉める提案があったが、施設を閉めると特定の利用者が長い期間使えなくなる。公共施設の中には週に6、7日開いているような施設もあり、週休2日を導入し同類の施設で休館日をずらすことも検討をしている。令和10年度末の20億の目標の達成のために、すぐに公共施設を閉じるのはハードルが高いため、ランニングコストを抑えることを考えている。廃止した場合は建物の活用方法を民間の提案から考えていきたい。12月議会では先が見えないことを含め否決となったが、中部分館の利用方法を市民や議会に示して、公共施設の削減を検討していきたい。お金を生むことを考えるよう言われたが、公共施設を有効活用し民間からお金を生むことを考えている。

#### A 市長

20億円貯まらなければ責任とって辞めることについて、責任をとるとはそういうことではなく、持続可能になることをどれだけするかだと思う。宣言した時に、市民の皆様を意識してもらおうと思い給与等を700万円減額することとした。そういうことから始めて、とにかく私はやりきるぞという覚悟をした。持続可能な碧南市にするために最後まで頑張っていく。

**Q7 【公共施設】**

結婚してから碧南に引っ越してきたが、碧南市のサービスはすごく素敵だと思っている。医療費が18歳まで無料、一割負担なども助かっている。同時に過剰なサービスや重複する施設が多いと思っている。ホール、お風呂は多い。くるくるバスは乗っている人をあまり見ない。中央駅の駐輪場は無料のため自転車があふれていて見栄えが悪い。駐車場も200円で安い。碧南の方は無料に慣れすぎているのではないかと思っている。公共施設の在り方など、市の身の丈にあったものを考えていただきたい。

**A 企画財政部長**

重複施設の整理やバスのあり方、駐車場の有効活用などを精査し、ランニングコストを抑えていく。受益者負担の考え方をもち、見直しを進めていく。

**Q8 【市政】**

今日の行政の提案説明は12月議会に出ていた。中部分館だけは変わっているが、3月議会にそのまま出るのか。二元代表制の地方自治で市議会議員も市長も対等でより良い碧南市の政策を作るという使命がある。これで良いなら問題ないが、様々な意見が出ている中で、少しでも変えてより良い、令和10年度に20億の貯金を目標にするような、政治に責任を持った人たちが、力を合わせて良い政策を3月議会で作ってほしい。議会側は修正案を出してもいい。段取りをすぐ取らないと3月議会に間に合わない。

**A 副市長**

新たな行財政対策については、市議会並びにここにおられる市民の皆様にも、あらゆる機会を通じて説明をさせていただく。

## 【南部プラザ】未来へつなごう！スマイルトーク

と き 令和8年2月13日（金）18時30分～

ところ 南部市民プラザ

出席者 95人

### Q1 【公共交通】

現在、くるくるバスが無料で運行されている。刈谷市で無料バスの有料化が進められているが、今後、碧南市においても有料化を検討する考えはあるだろうか。

A 副市長

くるくるバスの有料化については、当然検討を行っている。他市においても有料化の事例が増加している。本市では、生活弱者の移動手段として無料で運行を続けてきた。有料化を導入する場合、車両の改造や免許制度への対応が必要となり、結果として現在の無料運行の方が経費を低く抑えられるという側面がある。したがって、碧南市としては現在の形態を可能な限り継続する意向である。ただし、車両の更新時期などには制度の見直しも検討材料となるが、現行の車両で運行を続ける限りは、現在の体制を維持したいと考えている。

### Q2-1 【給与】

財政非常事態宣言が発令されているにもかかわらず、なぜ市役所の職員給与が削減されないのか。また、議員定員数もなぜ削減されないのか。市長の給与が年々上昇しており、このような状況で財政難に陥るのは当然の結果といえる。市民ばかりに負担を強いる一方で、市職員が現状の給与を維持しているのは納得しがたい。市民に負担を求めるのであれば、職員給与についても削減する方針を公表してほしい。

A 総務部長

今回の財政非常事態宣言に伴い、碧南市の行政サービスを近隣自治体の標準的な水準に合わせていくようお願いしている。職員の給与については、国が定める一定の給与表を採用しており、すでに標準的な水準となっている。仮に予算の編成が不可能となり、財政調整基金が底を突くなど、市政の継続が困難な事態に陥れば、職員給与の削減も選択肢の一つになると考えている。

### Q2-2 【給与】

なぜ即座に4月から実施すると断言しないのか。3月には議会が開催される。そこで発表を行えばよいのではないか。

A 総務部長

職員の人件費が高くなっているという状況ではある。その主な要因は、市が管理する施設数が多いことや、職員の総数がやや多いことにあり、給与水準が問題ではな

い。当面の対応として、まずは昨年 12 月に市長および副市長の給与削減を実施した。今後、財政状況がさらに悪化し、予算の編成が困難な状況になれば、検討していくことになる。ただ、職員給与を例えば半減させれば財源を確保できるが、そのような対策は現実的ではない。

#### Q 2-3 【給与】

見直しや検討は重ねるだけで実行に移さないのではないか。このままでは、令和 10 年度末になっても目標を達成できず終わるのではないか。もし目標が達成できなかった場合には、部長以上の役職者は退職金を全額なくしてもらえないか。

#### A 市長

このような財政難は碧南市だけの問題ではなく、より深刻な自治体も存在する。ただ、碧南市が今できることとして、これまでのサービスを西三河 9 市の標準水準に合わせていただきたい。国や県への要望活動においても、まずは独自サービスの水準を下げよう指摘される。

私自身の給与と退職金を削減した。まずは私たちが責任を示すことから始めた。一方で、職員の給与の削減をすると、優秀な職員の確保は難しくなる。今後、財政がさらに悪化した際には、職員も相応の覚悟を持って対応する。まずは現在の対策から着手させていただきたい。

#### Q 2-4 【給与】

現在の財政危機は、これまでの管理職のミスによって引き起こされたものではないのか。そして今後も続くのではないか。管理職は目標達成のために何を行い、やり切るのかを今宣言してもらいたい。そして、目標を達成できなかった場合には、退職金を全額返上するというほどの覚悟を断言していただきたい。検討して市民に負担を強いっているだけではないか。

#### A 副市長

今回の行財政対策については、令和 7 年度から 9 年度までの 3 年間で、財政調整基金の残高 20 億円を確保することを目標に、職員が一丸となって取り組んでいるが、市長が説明した通り、現時点ではまだ対策が不十分である。早急に対策を進める方針であるが、進捗によっては目標達成が令和 10 年度までずれ込む可能性もある。しかし、組織全体としてスピード感を持って取り組む意志は共有している。

また、管理職手当の見直しについても、当然検討している。タイミングを見て判断していきたい。まずは現行の対策を確実に断行し、目標達成に向かっていきたい。標準的な行政サービスにしていきたいということで、市民の皆様をお願いさせていただいている。

#### Q 3-1 【賞与・財政】

直近の冬期における市職員の賞与の支給月数は、何ヶ月であったか。生活基盤で

ある基本給の維持については理解できるが、一般企業において業績悪化時にまず調整されるのは賞与である。私自身、病院経営において状況が厳しく、管理職の給与を数年間削減したのち、苦渋の決断として一般職員の賞与削減に踏み切った。

今回の対策の中には順序があるはずだ。過剰な施設の見直しには同意するが、市民生活に直結する部分まで踏み込むのは性急ではないか。経済活動の推進による税収増までの期間を、市としての借入などを行い、ソフトランディングを目指す方法もあるのではないか。

また、ボランティア団体や子供会などもインフレで維持が大変な中、補助金が削減される。一方で、市民病院は経営状況が良くなければ補助される。それは官民の格差ではないか。民間団体は補助がなくなれば活動を削るしかないのが実情である。

改めて、生活給としての基本給の維持は理解できるが、賞与については財政状況に連動するものとするため検討いただきたい。

#### A 総務部長

賞与の支給月数は2. 3月分で、年間では4. 6月である。公務員の給与および賞与は、一般的に安定していると言われる。これは良くも悪くも安定しており、民間企業のように業績に応じて賞与が大幅に変動する仕組みではない。民間の景気が良好な場合に多少上昇する可能性もあるが、公務員の給与が極端に上がることはなく、反対に税収が大幅に減少した際、その変動に連動して給与を引き下げることがないのが基本的な考え方である。賞与についても、国の人事院勧告に準拠して決定しているのが実状である。

#### A 副市長

市の借り入れについて、市が借り入れする場合には、国などへの申請が必要であり、借り入れの対象となる事業は法的に限定されている。単に資金が不足している場合、一時借入金として銀行から調達することは可能だが、これには当該年度内に全額返済しなければならないというルールがある。道路建設や公共施設の整備といった特定の事業については、10年から30年という長期の償還期間を設けて借り入れることが認められている。しかし、どのような用途でも借金が可能というわけではなく、法的なルールがあることを認識いただきたい。

#### Q 4 【市民病院】

市民病院の経営難について、この場で市民に向けて伝えられても困るだけであるため、国や厚生労働省に対して強く働きかけるべきではないか。

病院の収益に関して、人間ドックなどの高収益な診療が行われていない。これは市民病院開院時、医師会との間で診療に制限を設ける合意があったためと聞いたことがある。このような制約が、現在の収益悪化を招いている一因ではないか。

また、西尾市民病院と統合してはどうか。病院の統合は、市長や部長級による他

自治体との交渉が必要。現在の危機的状況を鑑み、他市との医療連携を検討し、地域全体でのバランスを取ることはできないか。

**A 副院長**

入院患者の大部分が高齢者層で占められるようになった現状もあるため、市民病院を高齢者医療に特化させ、例えば西尾市民病院と統合した上で、急性期医療を西尾側に集約するという提案は、良い選択肢の一つであり、検討している。赤字を削減した上で、何らかの持続可能な形で病院を存続させたい。

**Q 5 【歴史資源】**

市長と市議会が機能していない。市議会議員は市民のために市を監視する役目を持っている。市長自身も元市議会議員であり、以前から財政の悪化は分かっていたはずにも関わらず、予見できなかったと話すことは、市議および市長としての職務を遂行していなかった証である。非常事態宣言をした現在、碧南市に来たいという人、住みたい人はどのくらいいるのか。未来や魅力を示していない。

また、私は本市の歴史研究に尽力し、文部科学省の補助金を受けられたが、市の対応で、補助金は受けられなくなった。どこが市民のために考えているのか。豊かな歴史資源があるにもかかわらず、それを活かそうとしない碧南市のどこに魅力があるのか。

**Q 6 【市民病院】**

これまでの市政は市民も含め監視しておらず、二元代表制が果たされていなかった。その結果、現在の財政危機となっている。市民病院の経営改善について、長い間計画を立てていても成果が上がっていない。明日から廃院することはできないため、廃院に向けてソフトランディングさせるにはどうすべきか考える時期が来ている。

**Q 7 【財政】**

来年度予算について、歳入の法人市民税が21%減とされているが、周辺市はそこまで減少していない。税収の予測の違いが大きいのはなぜか。また、財政力が高くない市で新たな施設が建設されることをみると、碧南市の運営方法にどこか違いがあるのではないか。法人市民税等において適切な税収確保に努めた上で、不足する場合に市民への負担をお願いするべきではないか。

**A 総務部長**

法人市民税は、企業の業績により変動する。碧南市は特定の大企業からの税収が占める割合が高いため、それら主要企業の業績変動が市全体の税収に直結し、左右されやすい。各企業の間接決算や最終決算見込みを見て予算を編成している。

**Q 8 【広聴】**

市の提示する改革案よりも、市民から出される案の方が説得力を持つのは、問題ではないか。市民の多様な意見をより多く聞き、市民の声を吸い上げるために、こうした対話の場を月1回程度開催できないか。

**A 市長**

対話を大切にしており、おしゃべり会も別に開催している。今後も継続して様々な機会を通じて定期的に対話の場を設けるため、積極的に参加していただきたい。

**Q 9 【公共施設】**

図書館について、1つの市に3館あるところは他にないと言うが、身近に図書館があることは市の誇りであるため、どの館も廃止してほしくない。豪華な施設にする必要はなく、老朽化した箇所を段階的に補修しながら、長く存続させることを望む。

各館でのお話し会は、各地域の小学校向けに実施しており、これは文化である。市長は子育て支援を重視しているが、図書館は子育て支援の大事な柱であると考え。図書館は単なる施設ではなく、碧南市の宝だ。財政調整基金を確保するために廃止することはやめてもらいたい。

**A 教育部長**

図書館3館については、建物の老朽化が著しい状況である。今後の方針については、当面は現行体制を維持する可能性もあるが、民間事業者から施設利用に関する提案を受けの中で、より効果的な使い方が見出されれば、新たな使い方を検討していきたいと考えている。仮に中部分館が図書施設でなくなったとしても、北部エリアの本館、南部エリアの南部図書館の2つは維持するため、今後の展開については見守っていただきたい。

**Q 10 【環境・公共施設】**

ゴミ袋の有料化について、市長はゴミの減量化が目的であると説明しているが、料金を徴収すればゴミが減るとするのは幻想である。資源ごみの分別をより細分化したり、生ごみはたい肥にしたりすることでゴミが減量できると考える。

市役所の対応は適当にあしらっているように感じる。以前、東部プラザの駐輪場で自転車が風で倒れやすいため、対応を依頼したところ、倒れる前に自分で倒しておけば良いという回答をされた。この件について委員会で発言した際、ある市議会議員からは、スーパーが転倒防止策を講じているのはお客様サービスであり、碧南市はそこまでしないとされた。その場に市長も同席していたが、一言も言わなかった。市は誰に対してサービスを提供する組織なのか。

**A 市長**

ゴミの減量化について、たい肥化などの取り組みに対する補助金制度が存在する

ため、市民により広く活用されるよう、積極的に周知を図る必要がある。

また、駐輪場の件について議会でこの件を取り上げたことを記憶しており、その後職員と協議を行っている。

#### Q 1 1 【施策】

市長は若い世代に住んでほしいと述べたが、その一方で碧南市民病院から小児科や産婦人科を縮小・撤退させる方針を示している。若い世代を呼び込みたいと言いつつながら、出産や小児医療の体制を縮小するのは矛盾している。

#### A 副院長

産婦人科の医師派遣が大学から停止している。これまで高齢の医師が尽力してきたが、判断力の低下等の懸念から、新たに医師2名を招き、現在は3名体制となっている。しかし、分娩は産婦人科医だけで完結できず、麻酔科医や小児科医が必要となる。これらの医師を24時間365日体制で確保し続けることは、多額のコストを要し、病院赤字の原因となっている。

また、大学側は本市のような規模(255床)の病院への派遣を控える傾向にある。そうすると派遣された医師が一人で当番となり、過労で倒れてしまうため、産科も小児科も大きな病院で集約していかないと回らない状況になってきている。さらに現代の若手医師は、過酷な勤務環境であれば退職してしまう実状がある。また、高額な報酬で医師を確保しようとするれば、質の低下を招く。

周産期医療(出産前後の医療)は、市長の方針以前に、医療提供側の問題で難しい状況になっている。一般に、周産期センターは人口70万人に対して1箇所あれば十分とされており、碧南市単独で体制を維持することは、難しいと感じている。